



中野冷機株式会社

2018年12月期
第2四半期決算説明会資料

2018年9月6日

東京証券取引所JASDAQ
証券コード：6411

目次

1. 会社概要
2. 2018年12月期 第2四半期決算の概要
3. 2018年12月期 業績予想
4. 下期の取り組み
5. 配当方針



目次

1. 会社概要
2. 2018年12月期 第2四半期決算の概要
3. 2018年12月期 業績予想
4. 下期の取り組み
5. 配当方針



会社概要

スーパーマーケットやコンビニエンス・ストアでの商品の陳列に使われる
冷凍・冷蔵ショーケースなどの冷凍・冷蔵設備機器の国内唯一の専門メーカー
です。

設立 1946年2月（創業1917年4月）

資本金 8億2,265万円

所在地 本社、大阪支店、広島営業所、東北営業所、相模原サービスステーション、千葉サービスステーション、水戸サービスステーション、いわきサービスステーション、結城工場

子会社 株式会社中野冷機神奈川、大分冷機株式会社、
上海海立中野冷機有限公司

従業員 507人（臨時、嘱託雇用者含む）（2017年12月末）



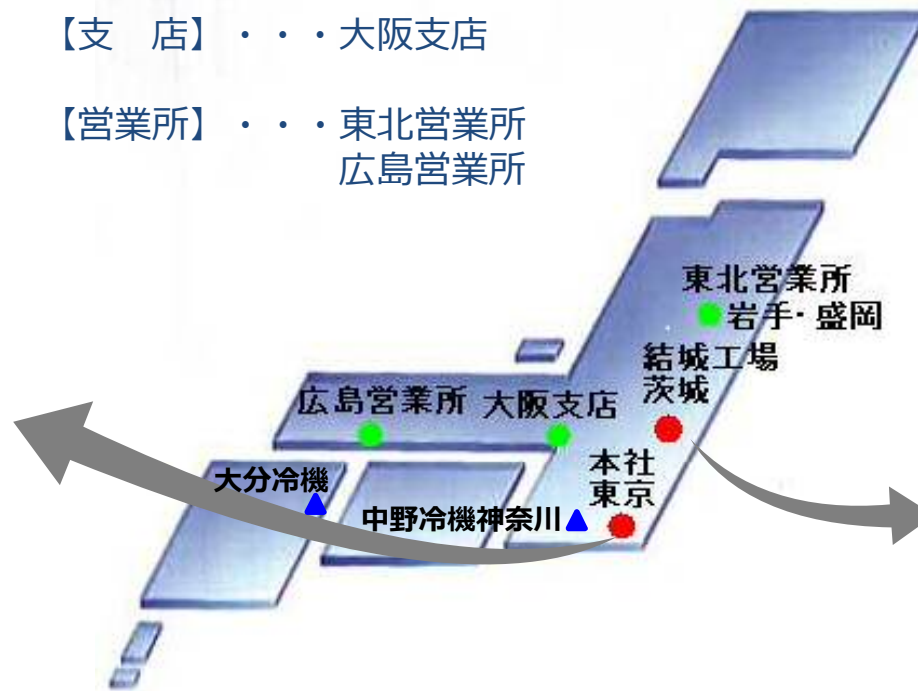
営業・販売拠点・子会社

【本 社】



【支 店】・・・大阪支店

【営業所】・・・東北営業所
広島営業所



【子会社】

- 中野冷機神奈川
- 大分冷機
- 上海海立中野冷機有限公司

【結城工場】



【上海海立中野冷機有限公司】

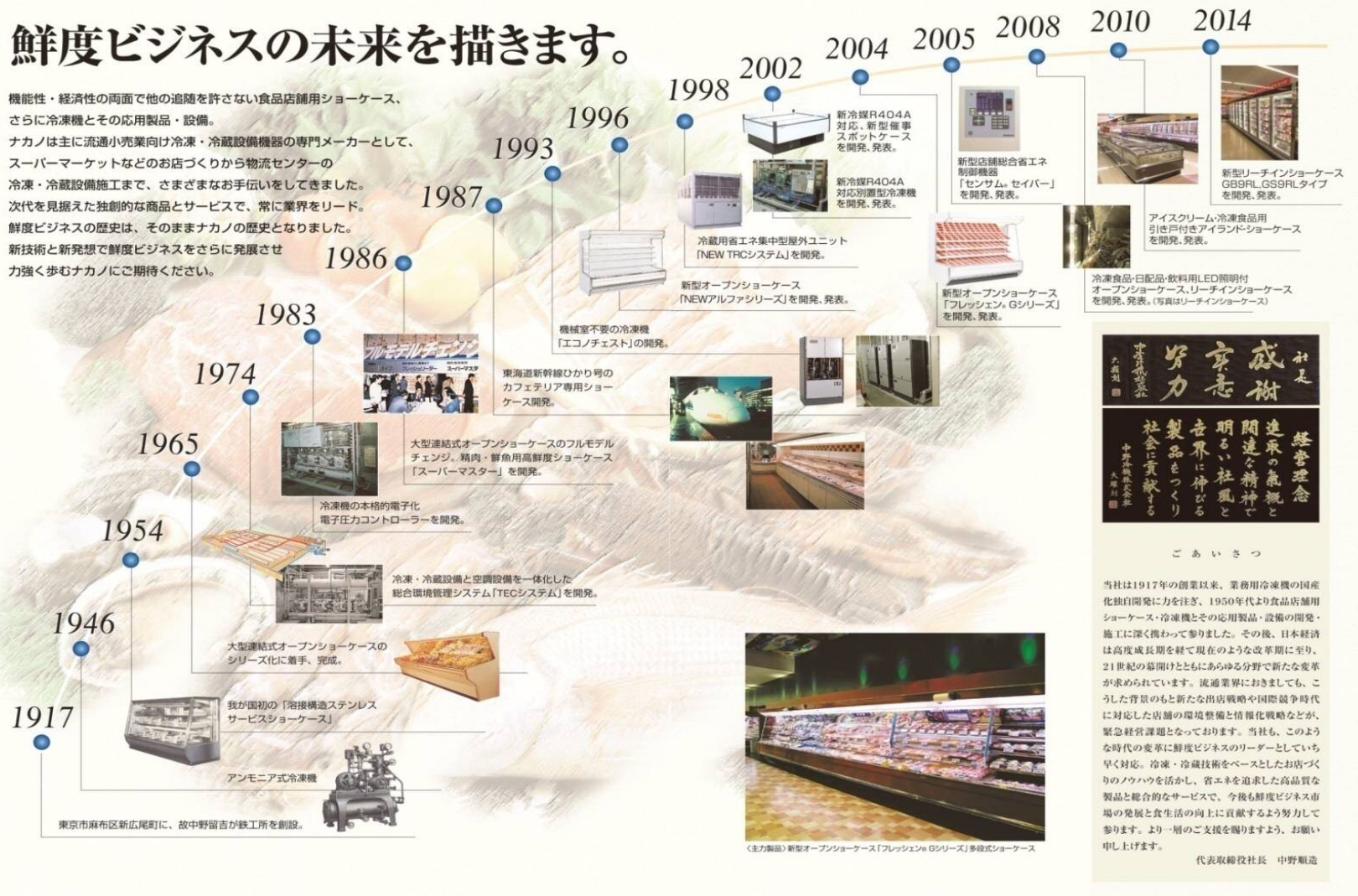


設立 1994年 8月
 規模 敷地面積 32,300㎡ 総建築面積 32,000㎡
 出資比率
 中野冷機株式会社 52%
 茶谷産業株式会社 5%
 上海海立股份有限公司 43%



鮮度ビジネスの未来を描きます。

機能性・経済性の両面で他の追随を許さない食品店舗用ショーケース、さらに冷凍機とその応用製品・設備。
ナカノは主に流通小売業向け冷凍・冷蔵設備機器の専門メーカーとして、スーパーマーケットなどのお店づくりから物流センターの冷凍・冷蔵設備施工まで、さまざまなお手伝いをしてきました。
次代を見据えた独創的な商品とサービスで、常に業界をリード。
鮮度ビジネスの歴史は、そのままナカノの歴史となりました。
新技術と新発想で鮮度ビジネスをさらに発展させ
力強く歩むナカノにご期待ください。



1917年創業 業務用冷凍機開発

1950年代 食品店舗用ショーケース と冷凍機開発

現在まで 食品店舗用ショーケース と冷凍機、その他 応用製品・設備の 開発・施工・ メンテナンス に従事

当社の主力製品およびサービス



ショーケース



冷凍機



工事・
メンテナンス



目次

1. 会社概要
2. 2018年12月期 第2四半期決算の概要
3. 2018年12月期 業績予想
4. 下期の取り組み
5. 配当方針



- 売上高は前年同期比3.5%減収 経常利益は25.3%減益
- コンビニエンス・ストア向け売上高は堅調
スーパーマーケット、物流センター等の大型物件向け売上高は減収
- 中国国内向けは、積極的営業活動に努めた結果22.9%増収



2018年12月期 第2四半期 損益計算書

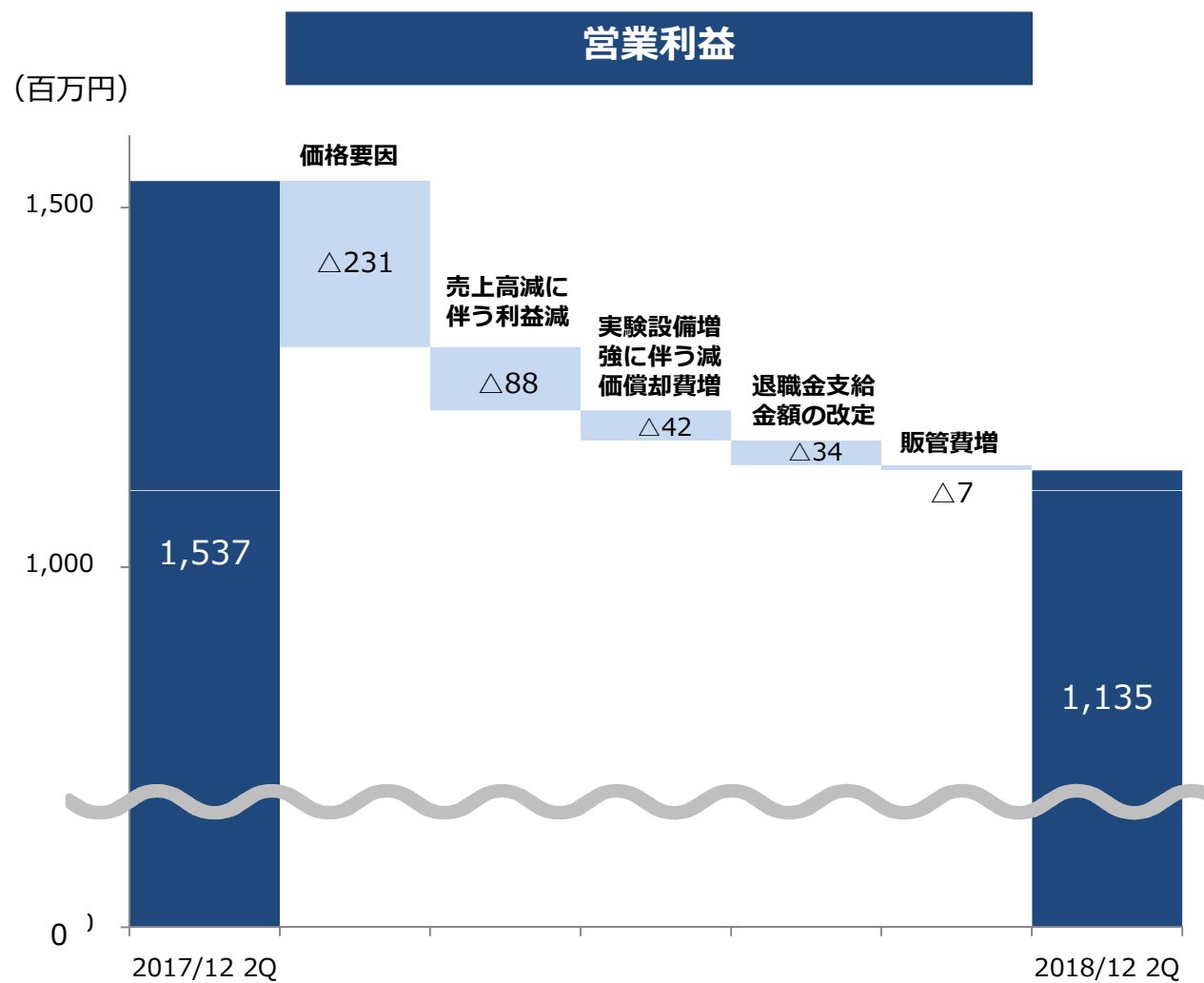
競合他社との価格競争激化に伴い、利益を圧迫

単位：百万円（百万円未満切捨て）、％

	2017/12		2018/12 前期比			
	2Q 実績	構成比	2Q 実績	増減	伸率	構成比
売上高	14,058	100.0	13,572	△ 486	△ 3.5	100.0
売上原価	11,502	81.8	11,410	△ 91	△ 0.8	84.1
売上総利益	2,556	18.2	2,161	△ 394	△ 15.4	15.9
営業利益	1,537	10.9	1,135	△ 402	△ 26.1	8.4
経常利益	1,575	11.2	1,176	△ 398	△ 25.3	8.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,063	7.6	803	△ 259	△ 24.4	5.9

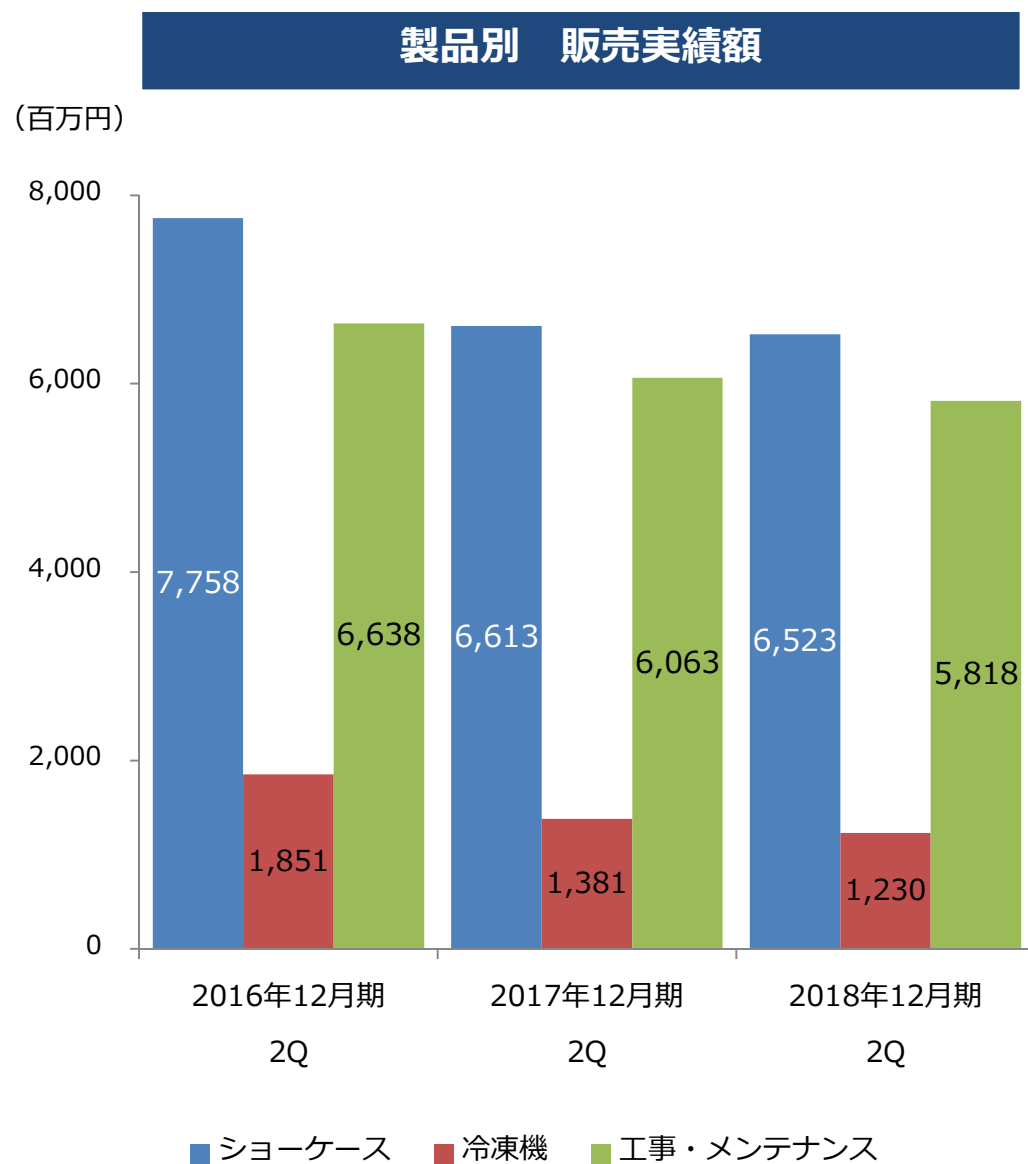
2018年12月期 第2四半期 減益要因

10

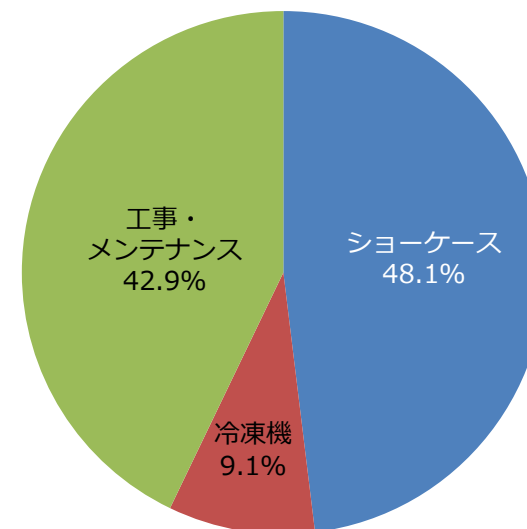


2018年12月期 第2四半期 販売実績（製品別）

11



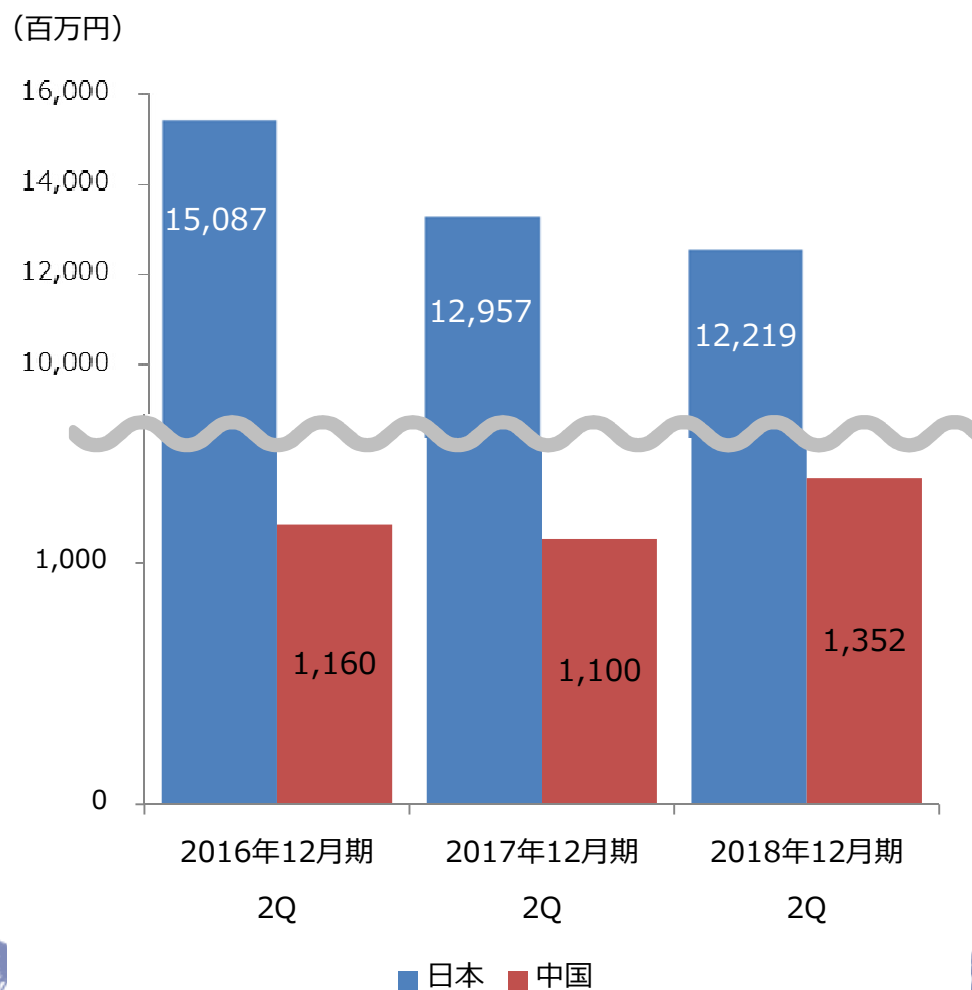
2018年12月期2Q
製品別 販売実績構成比



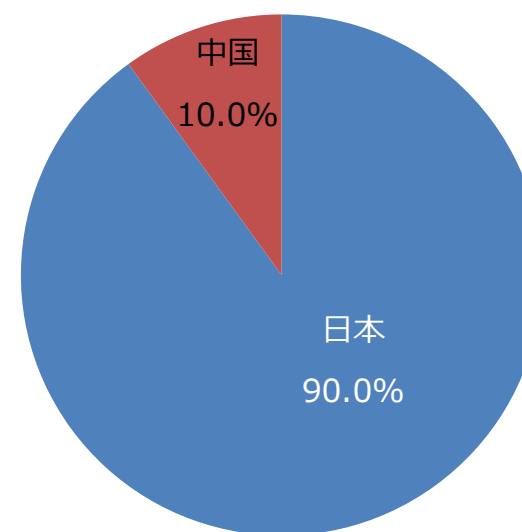
2018年12月期 第2四半期 販売実績（所在地別）

積極的な営業活動に努めた結果、中国での売上高は22.9%増収

所在地別 販売実績額



2018年12月期2Q
所在地別 販売実績構成比



2018年12月期 第2四半期 貸借対照表

13

単位：百万円（百万円未満切捨て）

	2017/12 実績	2018/12 2Q 実績	増減
資 産 合 計	39,473	39,296	△ 177.0
流動資産	33,711	33,544	△ 167.0
固定資産	5,762	5,751	△ 11.0
負 債 合 計	13,188	12,788	△ 400.0
流動負債	9,472	9,260	△ 212.0
固定負債	3,716	3,527	△ 189.0
純 資 産 合 計	26,285	26,508	223.0
株 主 資 本	23,566	23,863	297.0
その他の包括利益累計額	1,233	1,239	6.0
非支配株主持分	1,485	1,404	△ 81.0
自己資本比率（％）	62.8	63.9	1.1

売上債権の減少
（前年同期比：△274）

支払手形及び買掛金の減少
（前年同期比：△249）
未払費用の増加
（前年同期比：300）
固定資産購入等債務の減少
（前年同期比：△458）

2018年12月期 第2四半期 キャッシュフロー計算書

14

単位：百万円（百万円未満切捨て）

	2017/12 2Q 実績	2018/12 2Q 実績	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	176	1,395	1,219
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,786	△ 160	1,626
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,186	△ 554	2,631
現金及び現金同等物の増減額	△ 4,807	657	5,464
現金及び現金同等物の期首残高	12,678	9,204	△ 3,474
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,871	9,861	1,990

定期預金の解約による収入
333百万円
有形固定資産の取得による
支出485百万円

配当金の支払495百万円



目次

1. 会社概要
2. 2018年12月期 第2四半期決算の概要
3. 2018年12月期 業績予想
4. 下期の取り組み
5. 配当方針



2018年12月期 予想 損益計算書

下半期に上半期の未達をカバーして、年初の業績予想を達成できる見込み

単位：百万円（百万円未満切捨て）、％

	2017/12		2018/12 前期比			
	実績	構成比	予想	増減	伸率	構成比
売上高	27,836	100.0	27,500	△ 336	△ 1.2	100.0
営業利益	2,717	9.8	2,360	△ 357	△ 13.2	8.6
経常利益	2,799	10.1	2,440	△ 359	△ 12.8	8.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,868	6.7	1,630	△ 238	△ 12.8	5.9

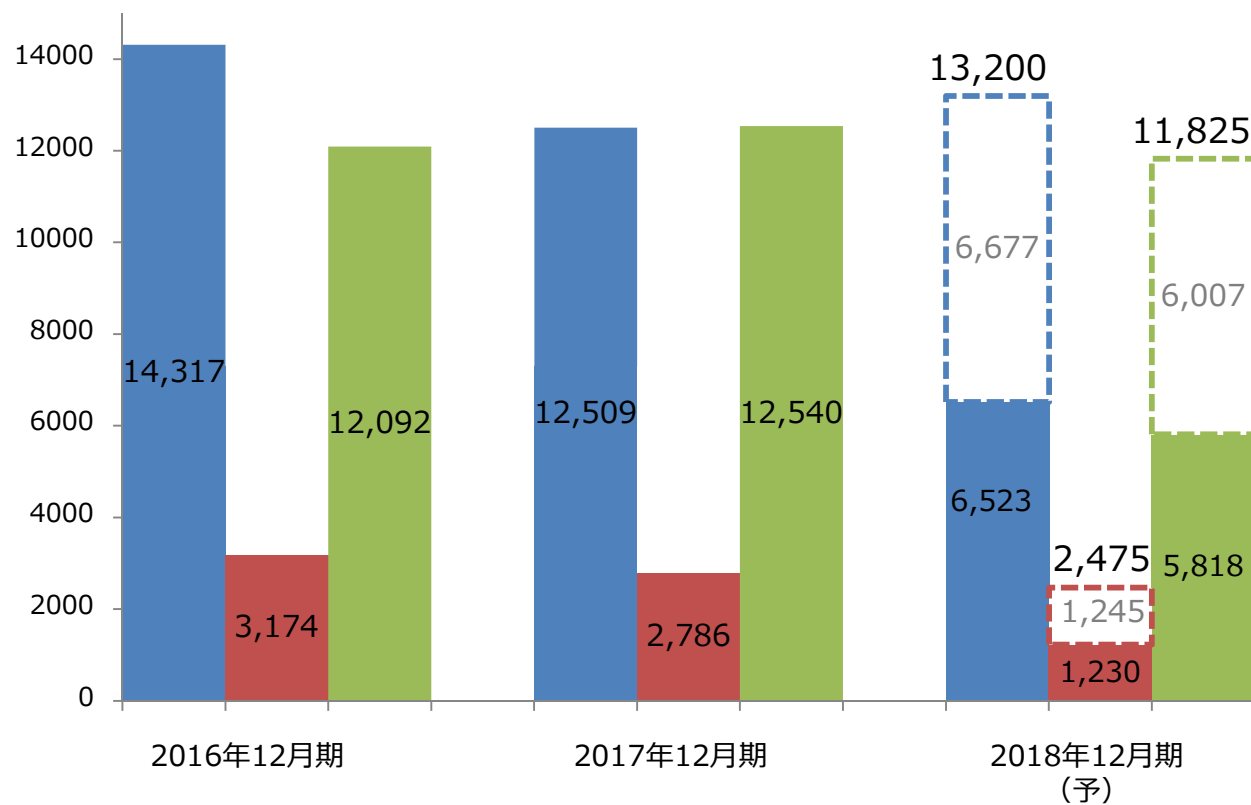


2018年12月期 予想 販売見込（製品別）

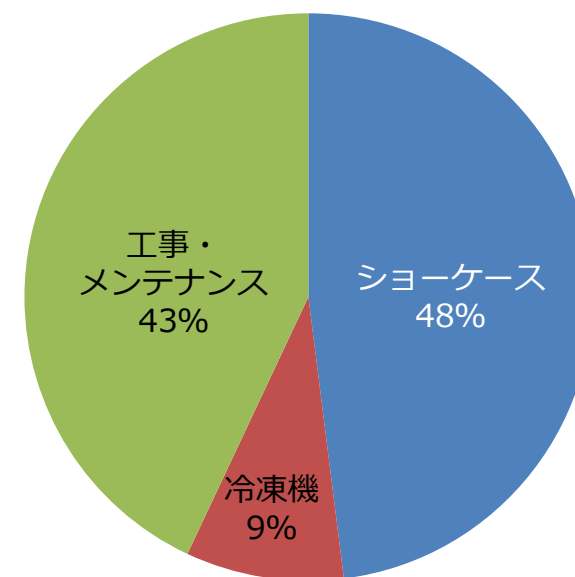
17

製品別 販売見込額

（百万円）



2018年12月期 製品別 販売見込構成比

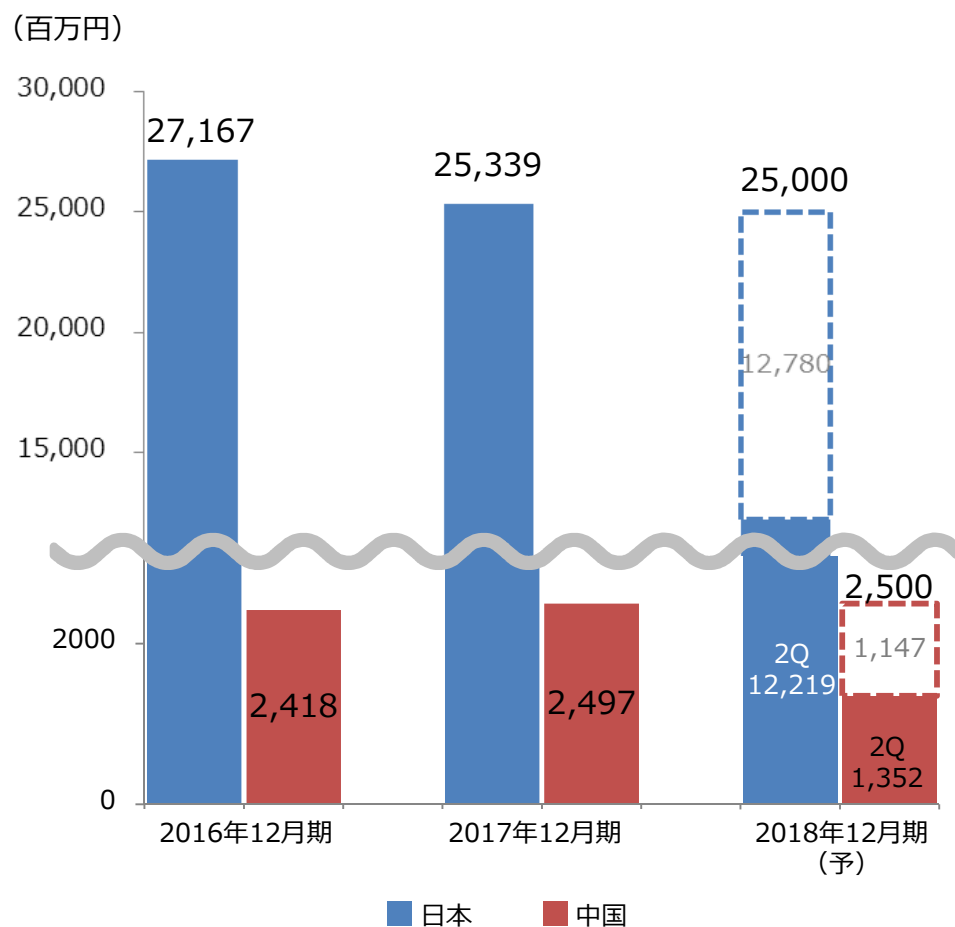


■ ショーケース ■ 冷凍機 ■ 工事・メンテナンス

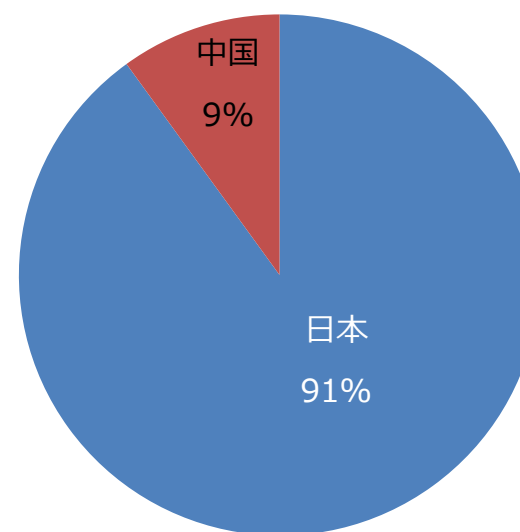
2018年12月期 予想 販売見込（所在地別）

国内では、下期に売上が伸びる見込み 中国では、新規顧客の開拓等、積極的な営業活動に邁進

所在地別 販売見込額



2018年12月期
所在地別 販売見込構成比



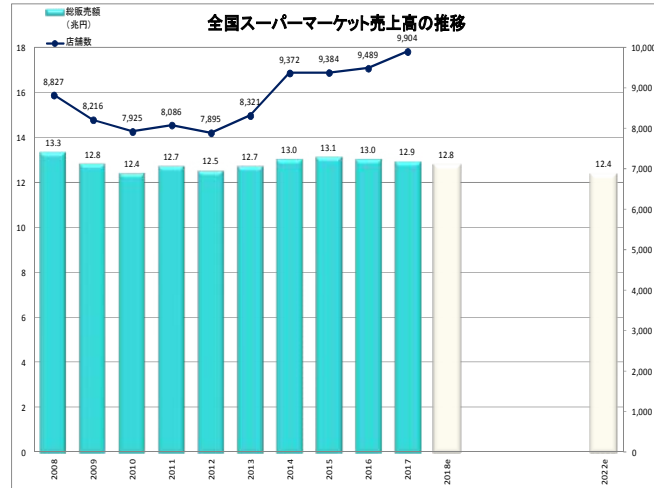
目次

1. 会社概要
2. 2018年12月期 第2四半期決算の概要
3. 2018年12月期 業績予想
4. 下期の取り組み
5. 配当方針

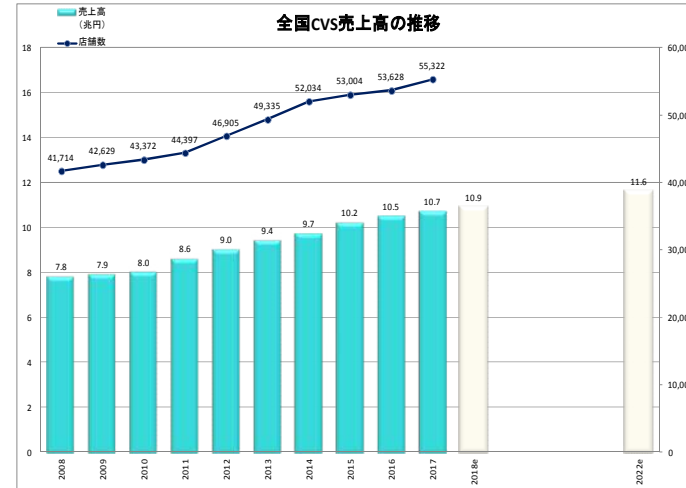


食品小売業界に対する取組

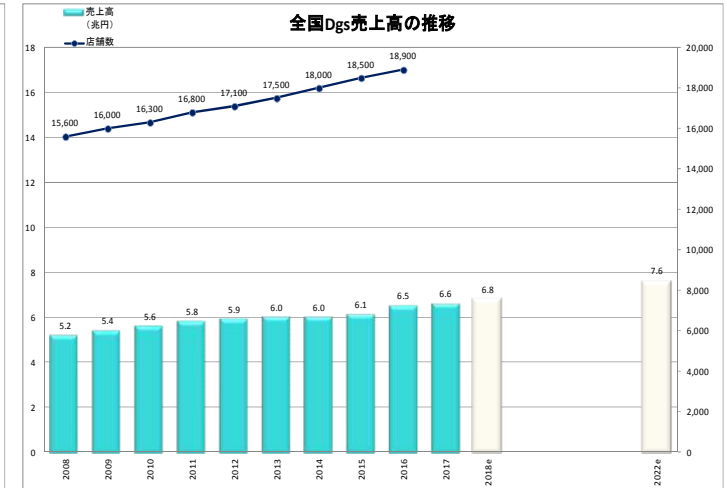
売上高と店舗数



出所：日本チェーンストア協会



出所：日本フランチャイズチェーン協会



出所：日本チェーンドラッグストア協会

◆スーパーマーケット

- CVS、Dgsとの競争への対抗策としての商品の値下げにより売上高は微減。
- 今後、食品のEC化が進み、売上高・店舗数ともに横ばいか微減。
- 規模は縮小していくと予想。

◆コンビニエンス・ストア

- 客数減を客単価上昇によってカバーし売上高を維持。
- 店舗数の伸び率は徐々に緩やかに。
- SM、Dgsとの競争はあるが、利便性提供に強みがあり、売上げの伸びが継続と予想。

◆ドラッグストア

- 高い価格競争力と他業態からのシェア獲得で、売上高増加。
- 処方箋～食品と幅広い取揃え強化により、伸びが継続と予想。
- 今後もさらにシェア獲得を見込む一方、出店余地に限界。

環境問題に対する取組（フロン問題）

地球温暖化への影響と対策



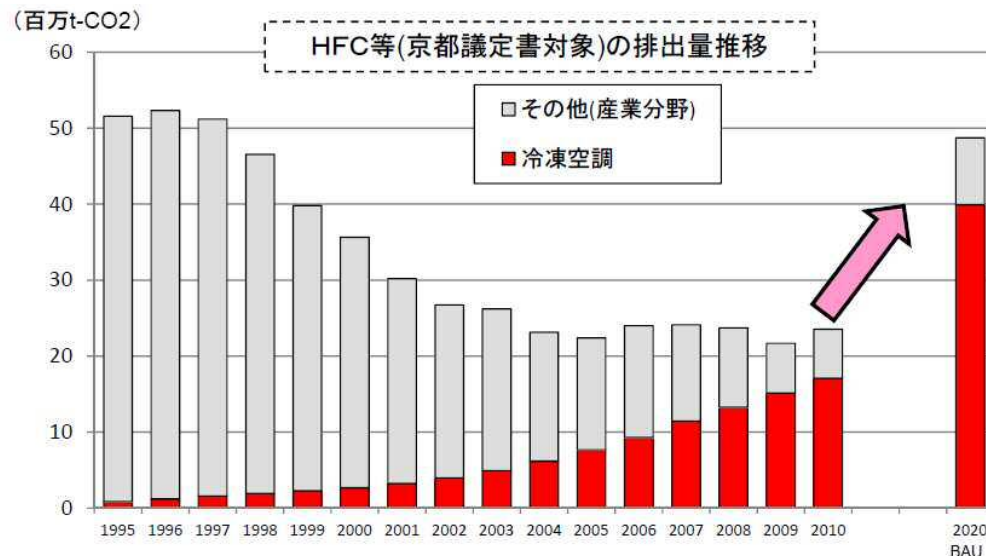
出所：環境省、経済産業省、国土交通省

「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」（フロン排出抑制法）

2016年度の代替フロン排出量は、前年度比10%増

代替フロンの使用量を11～13年を基準に19年から段階的に減らし、36年には85%減らす目標

代替フロン等の排出量推移



(BAU: Business As Usual ※フロン分野の排出推計においては、現状の対策を継続した場合の推計を示す。)

出所：経済産業省 「代替フロン等4ガス（HFC、PFC、SF6、NF3）に係る今後の対策について」

内蔵型ショーケース

冷媒充填量 0.05～2 (kg/台)
市場稼働台数 280 (万台)

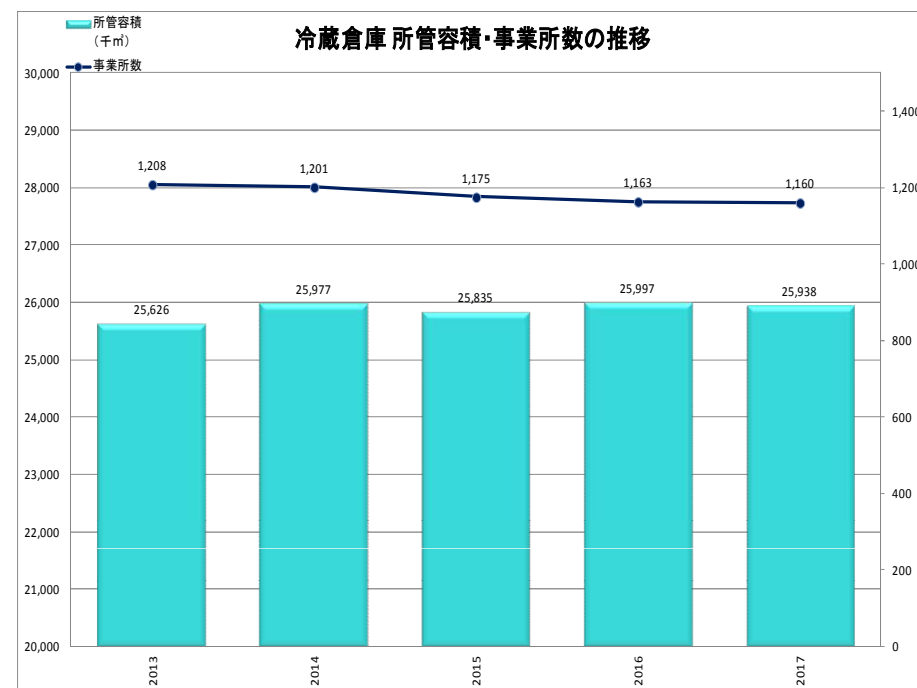
別置型ショーケース

冷媒充填量 2～20 (kg/台)
市場稼働台数 100 (万台)

大型冷凍冷蔵倉庫に対する取組

◆大型冷凍冷蔵倉庫

- 人口減少により、食品に対する需要は緩やかに減少する一方、ネット社会の拡大による物流や配送量の増加に伴い、大型冷凍冷蔵倉庫の新規建設が増加。
- 物流の効率化、保管から通過型物流への二ーズの拡大、既存倉庫の老朽化といった要因により、冷凍冷蔵倉庫の建替え、集約化の二ーズが加速。



[出所] 日本冷蔵倉庫協会資料



企業価値向上に向けての取組

◆アドバイザー・ボードの設置

- 7月にアドバイザー・ボードを設置。
- 毎月1回 会議を開催。
- 健全な事業運営のための忌憚のないご意見を頂戴。

◆中長期経営計画の策定

- 10・20年先の当社を想定し、長期ビジョンを策定。
- 長期ビジョンに向けて、3・5年後の達成目標を中期計画に。
- アドバイザー・ボードのご意見を踏まえ策定。

◆人材育成の強化

- 人材育成ロードマップを見直し、「技術力の向上」と「人間力の向上」を図る。



目次

1. 会社概要
2. 2018年12月期 第2四半期決算の概要
3. 2018年12月期 業績予想
4. 下期の取り組み
5. 配当方針



配当方針について

《基本方針》

2017年期末配当から基本方針を変更

- 株主に対する利益還元をさらに拡充し、業績への連動性を高めていくため、連結配当性向について30%を目標。
- 当期の連結業績、今後の業績見通し、内部留保の水準などを総合的に勘案しつつ、配当金額を算出。

《過去の配当の状況》

単位：円

	2016/12 実績	2017/12 実績	2018/12 見込
中 間	-	-	-
期 末	45	100	95
合 計	45	100	95
配当性向 (%)	14.2	29.2	29.5



1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値、将来の見通しに関する記述は、当社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。そのため、実際の業績は様々な要因により予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社は、将来に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。



■■■■ 鮮度ビジネスのリーダー ■■■■

Nakano



All rights reserved, Copyright© Nakano Refrigerators CO.,LTD.